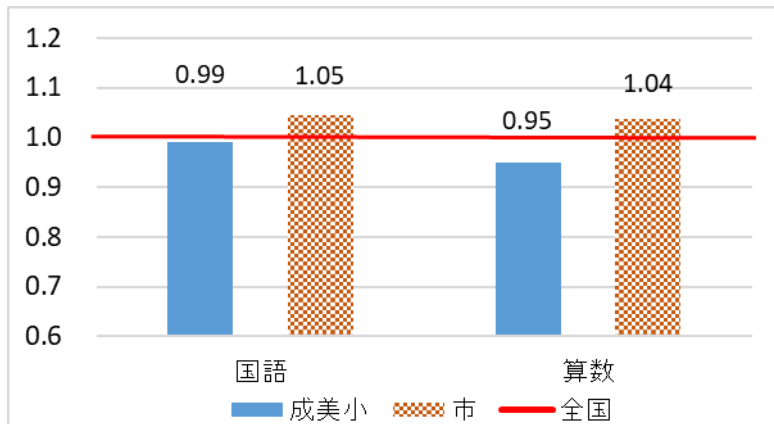


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第九中学校区 成美小学校

第6学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

文中の修飾と被修飾の関係を捉える問題や語句の使い方を理解して文章の中で使うことができている（+9.4%）。また、思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができている（+6.4%）。しかし、目的に応じて文章と図表を結びつけて必要な情報を見つけることについては理解できていない児童が多い（-13.2%）。複数の情報から、必要な情報を見つけたり、自分の考えをまとめたりする活動が必要である。

【算数】

速さと道のりの関係は理解して式に表すことができる（+7.8%）。しかし、集団の特徴を捉えるためにどのようなデータを集めるべきか判断することが苦手で、データの活用が全体的に弱い（最大-13.3%）。また、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述すること（-6.6%）や30mを1としたとき、12mが0.4に当たるわけを書く（-6.0%）など求め方やその理由を記述することが苦手である。今後の学習では、なぜそのように考えたのかを説明する活動を丁寧に行う必要がある。また、データの活用について、改めて振り返る必要がある。

【質問紙調査】

「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」など他者に対しての意識は良好である。また、「学級生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」も良好だった。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか」が低く、自分に自信が持っていない状況がある。そのため「考えを発表する機会では、資料や話の組み立てなどを工夫して発表しましたか」などみんなの前で意見を言うことについても若干低くなっている。しっかりと自信を持って発表や行動ができるように授業や学校生活を通して成功体験を増やしたい。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区として話を正確に聞く力・自分の思いや考えを話す力を大切に取り組んできている。そのため、昨年度に引き続きディベート教育を中心として、話す力・聞く力を身につけ、論理的・客観的・多角的思考力を培い、考える力の育成を進めている。

寝屋川方式の学習方法を基に、学習規律の徹底を校区教員で進め、小中9年間で一貫した指導を進めていくことで、児童・生徒の学習習慣の定着を図っている。また児童・生徒の主体性を伸ばすとともに、がんばっている姿・良いところを褒めて、自己肯定感を高めている。

【学校】

学年集団の学習意欲の向上が感じられる。今後、児童の意欲をさらに引き出し、算数や国語では、授業で答えに行き着いた理由を大切に扱い、一人ひとりが自分の言葉でまとめる活動や説明する活動を充実させていく。また、算数のデータの活用分野は、学年として授業の中で補習を行うとともに、家庭学習でも復習問題を繰り返し出題して定着を図る。